

今は昔、
 今となつては昔のことだが、貫之が土佐守になりて、
 下りてありけるほどに、任果ての年、
 七つ八つばかりの子の、えもいはずをかしげなるを、
 限りなくかなしうしけるが、
 とかく煩ひて、
 七・八歳くらいの子で、言ひようもなくかわいらしい子を、
 この上なくかわいがっていたが、
 しばらく病氣になつたと思つたら死んでしまったので、
 とても泣き悲しんで、
 病づくばかり、
 思ひこがるほどに、
 月ごろになりぬれば、
 かくてのみあるべきことかは、
 上りなんと、
 何か月もたつてしまったので、
 こつして(悲しんで)ばかりいてみかづつか、
 いやみくない、
 都に上つて、
 思ふに、
 思ふが、(あの)子がこころでこんなことをしていたなあと、
 思ひ出でられて、
 いみじう悲しかりければ、
 柱に書きつけける。
 歌を柱に書きつけた(その歌)。
 都へと 思ふにつけて 悲しきは 帰らぬ人のあればなりけり
 都に帰ろうと思つにつけても悲しいのは、(死んでしまつて)ともに帰らないわが子があるからだなあ。
 と書きつけたりける歌なん、
 今まで残っていた。
 今まで残っていた。

宇治拾遺物語「建暦二年(一一二二)から承久三年(一一二二)までの間に成立。編者不明。十五卷、一九六話を収める。仏教説話と一般の説話からなる。当時の事実談も含む。

語句・文法

下りて—京都を中心に考える。「上る」ならば、都に行くことになる。
 任果て—地方官は春に行われる異召しの除目によって決定され任期は四年。在京官吏は司召しの除目によって決定された。
 えもいはずをかしげなる—言ひようもなくかわいらしい子。「えいず」(打消)で「することができない」の意。
 かなしうしける—かわいがっていた。形容詞「かなし(愛し)」「はいとおしい、かわいい」の意。ここはサ変動詞「かなしうす」である。
 泣き感ひて—とても嘆き悲しんで。「感ふ」は他の動詞の連用形について「ひどくすする」意となる。
 かくてのみあるべきことかは—こうして(悲しんで)ばかりいてよかるうか、いやよくない。「うかは」で反語となる。
 あればなりけり—已然形(あれ) + 接続助詞(ば)「原因・理由を表す。歌で使われる「けり」は詠嘆の意が多い。
 なんありける—係り結び(P.23参照)。

解答

問1	活用の種類	語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	カ行変格活用	来	(来)	こ	き	く	くる	くれ	(こよ)
	ナ行変格活用	死ぬ	死	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
	ラ行変格活用	はべり	はべ	ら	り	り	る	れ	れ
	サ行変格活用	す	(す)	せ	し	す	する	すれ	せよ
	カ行下一段活用	蹴る	(蹴)	け	け	ける	ける	けれ	けよ

- 問2 A 連用形 B 連体形 C 連用形 D 已然形 E 連用形
 問3 かなしうし 問4 えもいわずおかしげなる
 問5 貫之 問6 ウ

解説

問1 変格活用と下一段活用の動詞は数が限定されており、所属する語も決まっているので、まず最初に覚えてしまう。「見る」はマ行上一段活用。「寝」はナ行下一段活用(「寝る」も同じ)。「悔ゆ」はヤ行上一段活用。「経」はハ行下一段活用。「買ふ」はハ行四段活用。
 問2 終止形接続の助動詞(べし・めり・らし・まじ・伝聞推定の「なり」)はラ変型の活用には連体形に接続する。傍線AとEは過去の助動詞「けり」の連体形が接続している。Cは過去の助動詞「き」の連体形が接続している。過去の助動詞は連用形接続となる。Bは推量の助動詞「べし」が接続しているので連体形になる。Dは接続助詞「ば」が接続している。「ば」は未然形か已然形に接続するが、ラ変の未然形は「ら」になる。
 問3 形容詞「かなし」からできた動詞が「かなしくす」で、そのウ音便(P.11参照)が「かなしうす」となる。サ行変格活用の動詞は「す」一語だが、複合語は多数ある。
 問4 動詞「いふ」、形容動詞「をかしげなり」に注意する。
 問5 登場人物は、父親の貫之と亡くなった子(娘)である。子を亡くした父親の様子と考える。
 問6 歌の「帰らぬ人」が貫之の亡き娘であることから考える。本文中の歌はその場面の感情が凝縮されているので注意する。

学習のポイント

動詞の活用の種類は、《四段活用・下一段活用(蹴る)・ナ行変格活用(死ぬ・去ぬ)・ラ行変格活用(あり・をり・はべり・いますがり)・上二段活用(九語とその複合語)・上二段活用・下二段活用・カ行変格活用(来)・サ行変格活用(す)とその複合語・おはす》の九種類。
 変格活用と下一段活用の動詞は、先に覚えてしまうと便利である。
 用言(動詞・形容詞・形容動詞)の活用は助動詞の活用を覚えるときにも役立つ。
 「完了の助動詞「ぬ」はナ変型」というように正確に暗記する。特にラ変はさまざまなどころで登場する(形容詞のカリ活用や形容動詞、助動詞)。なお、活用の種類を問われたら、「行く活用」とすることを忘れずに。
 活用形は接続する語によって判断できる場合が多い。特に助動詞や助詞の接続は大切。例えば、過去の助動詞「けり」は連用形に接続するとか、接続助詞「ば」は未然形もしくは已然形に接続するというように、出てくるたびに覚える。

【基本チェック問題】解答

- ① す↓する 来↓来る
 あり↓ある 去ぬ↓去る

② 県召しの除目